

心室細動を惹起する右室流出路起源心室期外収縮に対するカテーテルアブレーションが著効した Brugada 症候群の 1 例

油井慶晃 関口幸夫 山崎 浩 金城貴士
吉田健太郎 冨田 浩 青沼和隆

32 歳，男性。2011 年 11 月，入浴中に突然，数分間の意識消失を認めた。自然に意識は回復したが，救急車内で再び意識消失発作を認めた。モニター心電図により心室細動 (VF) が確認され，VF の 1 拍目と同一の単形性心室期外収縮 (PVC) が頻発していた。約半年前の健診では前胸部誘導に明らかな ST 変化は認めていないものの，来院時は coved 型心電図を呈しており，Brugada 症候群と診断された。同日に再度 VF が出現したため，VF を惹起する PVC (左脚ブロック型 + 下方軸) に対するカテーテルアブレーションを緊急で施行した。3-D mapping では，心内膜側に低電位領域は認めず，右室流出路後側壁で QRS に 32 msec 先行する電位が記録され，同部位に対するアブレーションにより PVC は抑制された。入院直前に，微熱および PVC に伴う動悸発作が出現しており，発熱を契機に Brugada 症候群が顕在化したものと推測されるまれな 1 例であった。

Keywords

- Brugada 症候群
- 心室細動
- カテーテルアブレーション

筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御学循環器内科
(〒 305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1)

Suppression of a Ventricular Fibrillation by Targeting the Triggering Premature Ventricular Contraction Arising from the Right Ventricular Outflow Tract in a Patient with Brugada Syndrome

Yoshiaki Yui, Yukio Sekiguchi, Hiro Yamasaki, Takashi Kaneshiro, Kentaro Yoshida, Hiroshi Tada, Kazutaka Aonuma